



市民ボランティアによる資料クリーニング作業

## 「ボランティア」から学ぶ歴史資料保全 — 東日本大震災の取り組みから —

天野 真志 (東北大学災害科学国際研究所・NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク)  
柴田かよ子 (NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワークボランティア)  
鳥山美智子 (NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワークボランティア)

2011年に発生した東日本大震災において、宮城県各地で確認された大量の被災歴史資料を救済するボランティア活動が実施された。宮城歴史資料保全ネットワークは、この取り組みの過程で、さまざまな関心から参加する多くのボランティアと活動をともにしてきた。本報告では、ボランティアに参加した立場、さらにボランティアを受け入れた立場から、ともに歴史資料保全に取り組むことで生まれるいくつかの可能性について紹介する。



あまの まさし  
鳥根県浜田市出身。  
東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者を経て、2012年から東北大学災害科学国際研究所助教を務める。専門は日本近世・近代史、古文書学、歴史資料保全。NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局を担っている。



柴田かよ子  
しばた かよこ



鳥山美智子  
とりやま みちこ

## 第3部 パネルディスカッション (16:10～16:55)

### 地域と共に、市民と共に考える 文化財の防災減災

司会：本田光子 (九州国立博物館)

地域の文化財を災害から守るためには、常日頃からどこに何があるかを把握しておくことが大切です。文化財を余すことなく一点一点調べる「悉皆調査(しっかいちょうさ)」が必要な理由はここにあります。この悉皆調査は、従来専門家によって行われてきたものですが、一方で阪神・淡路大震災以降、市民参加型の悉皆調査の取り組みが大規模災害の被災地で始まっています。

市民参加型の悉皆調査のもつ意義や課題そして持続可能な体制づくりについて議論します。



川内淳史

かわうち あつし  
神戸大学大学院  
青森県青森市出身。関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了。2013年大阪府史料調査会調査員を経て、2015年より神戸大学大学院人文学研究科特命講師。専門は日本近現代史、資料保全論。現在、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターで三木市との連携事業を担当、新三木市史編さん事業に従事している。



伊達仁美

だて ひとみ  
京都造形芸術大学  
大阪府大阪市出身。帝塚山大学教養学部卒業。公財)元興寺文化財研究所研究員を経て、2002年より京都造形芸術大学歴史遺産学科教授。専門は民俗文化財の保存修復。民俗資料の保存と修復および活用の方法をあらゆる方向から考え、それらを地域の歴史遺産と捉え、地域で守る活動を行なっている。現在は、京都市登録文化財「久多(京都市左京区)の生活用具」を用いた「文化遺産を活かした地域活性化事業「久多の里山文化活性化プロジェクト」」に取り組む。



村田眞宏

むらた まさひろ  
豊田市美術館  
三重県津市出身。関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了。福島県立美術館学芸員、愛知県美術館美術課長、企画業務課長、副館長などをを経て2011年から2015年まで愛知県美術館長。現在は、豊田市美術館館長を務める。専門は日本近現代美術史。知多市文化財保護審議員として、知多市に残された仏像の悉皆調査を実施している。

### 山口俊浩

やまぐち としひろ  
文化庁  
文化庁文化財部美術学芸課美術館・歴史博物館室振興係長。併任で建築資料調査官。美術館・博物館への事業支援、被災した美術館・博物館への特別支援等を担当している。

主催 九州国立博物館 後援 福岡県・福岡県教育委員会・太宰府市・筑紫野市・大野城市・春日市・那珂川町・一般社団法人文化財保存修復学会・一般社団法人ミュージアム支援者協会・NPO法人文化財保存支援機構

文化財を災害から守るため、今、平時からその地の文化財を余すことなく一点一点調べる「悉皆調査(しっかいちょうさ)」が急がれる。一方、大規模災害の被災地では、市民による調査や整理が取り組まれている。近年、こうした市民参加型の悉皆調査が、文化財保全はもちろん、地域活性化にも繋がるようになってきた。本シンポジウムでは、九州と阪神・淡路、中越、東日本大震災の地の事例を紹介し、地域と共に、市民と共にすすめる今後の文化財防災減災を考える。

平成28年 1月24日(日) 13:00～17:00

会場 九州国立博物館ミュージアムホール (福岡県太宰府市石坂)

総司会 小泉恵英 (九州国立博物館)

13:00～13:05 開会挨拶 島谷弘幸 (九州国立博物館長)

## 第1部 基調講演

13:05～13:45 **あらためて考える 文化財の悉皆調査と市民**  
— 阪神・淡路大震災とボランティア元年 —  
三輪嘉六 (NPO法人 文化財保存支援機構理事長・前九州国立博物館長)

## 第2部 事例報告 (13:45～16:00)

### ① 地域と共に

13:45～14:10 **防災的観点から見た「大分県記録史料調査事業」**  
村上博秋 (大分県立歴史博物館)  
14:10～14:35 **「島原大変肥後迷惑」**  
— 熊本県内に残る津波碑の悉皆調査からみえてきたこと —  
坂口圭太郎 (熊本県立装飾古墳館) 美濃口雅朗 (熊本城調査研究センター)  
松本 博幸 (天草市文化課)

14:35～14:45 (休憩)

### ② 市民と共に

14:45～15:10 **阪神・淡路大震災以降の文化財保全活動**  
— 一人、まち、時代をつなぐ旧玉置家住宅 —  
辻田政顕 (三木市豊かなくらし部商工観光課)  
15:10～15:35 **新潟県中越大地震と市民参加による資料整理**  
— 十日町市古文書整理ボランティア10年のあゆみ —  
高橋由美子 (十日町市教育委員会)  
村山 歩 (十日町市博物館・十日町市教育委員会)  
山内 景行 (十日町市古文書整理ボランティア写真整理チーム)

15:35～16:00 **「ボランティア」から学ぶ歴史資料保全**  
— 東日本大震災の取り組みから —  
天野 真志 (東北大学災害科学国際研究所・NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク)  
柴田かよ子 (NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワークボランティア)  
鳥山美智子 (NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワークボランティア)

16:00～16:10 (休憩)

## 第3部 パネルディスカッション

16:10～16:55 **地域と共に、市民と共に考える 文化財の防災減災**  
司会：本田光子 (九州国立博物館)  
パネリスト  
川内淳史 (神戸大学大学院)・伊達仁美 (京都造形芸術大学)・  
村田眞宏 (豊田市美術館)・山口俊浩 (文化庁)

16:55～17:00 閉会挨拶 栗原祐司 (国立文化財機構文化財防災ネットワーク 推進室長)

# 地域と共に考える 文化財の防災減災Ⅱ



東日本大震災で被災した歴史資料の保全活動 (写真/NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク)



独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム

# あらためて考える 文化財の悉皆調査と市民

## — 阪神・淡路大震災とボランティア元年 —

三輪嘉六 (NPO法人文化財保存支援機構理事長・前九州国立博物館長)



### プロフィール

みわ かるく

岐阜県瑞浪市出身。日本大学文学部(現在の文理学部)史学科卒業。奈良国立文化財研究所研究員、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同文化財鑑査官、日本大学教授などを経て、2005年から2015年3月まで九州国立博物館長。現在はNPO法人文化財保存支援機構理事長。専門は考古学、文化財学。各地の文化財保護関係の委員を務めている。著書に「日本馬具大観I~IV巻」(編著)ほか論文多数。

阪神・淡路大震災の文化財レスキューの経験から、特に動産文化財についてその所在情報を一点一点余すことなく調べて台帳化する悉皆調査を実施することが重要であると考え。埋蔵文化財の分野においては、遺跡の悉皆調査(分布調査)が繰り返し実施され、その成果が文化財の保存・活用に利用されている。動産文化財の分野でも、地域や個人によってだけでなく、国の責任による悉皆調査やその体制づくりの必要があるのではないだろうか。

一方、大規模災害を契機に、被災地を中心として、市民参加型による地域の文化財の調査や整理活動が広がりを見せていることも事実である。ボランティア元年と呼ばれる阪神・淡路大震災以降、研究者・学生・市民の協力によるボランティア団体の史料ネットを中心とした文化財レスキューもさらに深まりを見せている。

動産文化財の悉皆調査の重要性・必要性と、市民ボランティアの活動の意味について考えたい。



神戸市立博物館の被災状況



東日本大震災の文化財レスキューの様子

## 第2部 事例報告 (13:45 ~ 16:00)

### ① 地域と共に 13:45 ~ 14:35



バチカン図書館に所蔵される古文書の調査

## 防災的観点から見た「大分県記録史料調査事業」

村上博秋 (大分県立歴史博物館)

大分県立先哲史料館では1995年の開館当初より、大分県にかかわる記録史料の悉皆調査を開始した。それが「大分県記録史料調査事業」である。散逸防止のため、民間に所蔵される記録史料も積極的に調査し、所在を把握しておこうという取り組みであった。阪神・淡路大震災直後ということもあり、調査事業の開始に「防災」という意識が強く働いたことは明らかである。本報告は、その調査事業が「防災」という観点に立ったとき、どのような意義をもつのか、一方でどのような課題をもつのかを考察・整理したものである。



むらかみ ひろあき

大分県大分市出身。九州大学文学部史学科卒業。大分県立高等学校教諭、大分県立先哲史料館研究員、主任研究員を経て2013年から県立歴史博物館主任研究員。専門は日本近世史。各地域に残る昔の文書や記録について、内容を調べ、地域の魅力を語るものとして未来へ伝えることを目的に、大分県記録史料調査事業を実施している。



悉皆調査(聞き取りの様子)



さかぐち けいたろう

熊本県熊本市出身。奈良大学文学部文化財学科卒業。熊本県立装飾古墳館学芸課学芸員、熊本県文化課調査係を経て、2009年から熊本県立装飾古墳館学芸課長。専門は考古学、主たる研究は装飾古墳の保存・活用。古墳館の展示企画として『大分県の装飾古墳』、『佐賀県・長崎県の装飾古墳』がある。主な執筆物に「特集古代王権と古墳の謎」、「装飾古墳修復材料の研究IIがんぜきを用いた試み」など。平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館事業「みんなでまもる文化財 みんなをまもるミュージアム」事業ワーキング委員。



美濃口雅朗  
みのぐち まさお



松本博幸  
まつもと ひろゆき

### ② 市民と共に 14:45 ~ 16:00



ふすまの下張りをはがす市民ボランティア

## 阪神・淡路大震災以降の文化財保全活動

### — 一人、まち、時代をつなぐ旧玉置家住宅 —

辻田政顕 (三木市豊かなくらし部商工観光課)

旧玉置家住宅は、築180年以上が経過している三木市を代表する歴史的建築物であり、2002年に国登録有形文化財に登録された。同家には、所蔵の書物類、古文書や古い襖が昔のまま残されており、その保存・活用が2009年から市民ボランティアによって行われている。報告では、同家を拠点に歴史遺産を見直し、活用していくことでまちづくりに繋げていく取り組みを市民の方々と協働で実践している事例を紹介する。



つじた まさあき

兵庫県三木市出身。2015年から三木市豊かなくらし部商工観光課特命課長。三木市の観光振興を担当している。

## 新潟県中越大地震と市民参加による資料整理

### — 十日町市古文書整理ボランティア10年のあゆみ —

高橋由美子 (十日町市教育委員会)

村山 歩 (十日町市博物館・十日町市教育委員会)

山内 景行 (十日町市古文書整理ボランティア写真整理チーム)

2004年10月、新潟県中越地震で被災して行き場を失った約16万点もの古文書などの歴史資料が十日町市に寄託・寄贈された。翌年5月、被災資料を後世に伝え活用できるようにするため、十日町市古文書整理ボランティアが発足した。以来、市民ボランティアと行政が協働して整理作業を進め、活動の節目には成果報告会や写真展などを開催し、多くの市民から理解と共感を得た。こうした一連の取り組みは市民の記憶・体験の記録化・共有化の作業そのものであり、被災により喪失感や不安感を感じている人々が自己の肯定感や地域との一体感を取り戻す機会にもなっている。市民参加による資料整理という手法は、地域の復興に大きな意味を持つものと考えている。



市民ボランティアが整理した写真の展示



たかはし ゆみこ

新潟県十日町市出身。専修大学文学部人文学科社会文化コース卒。十日町市博物館、十日町情報館(十日町図書館)を経て、2013年から十日町市教育委員会生涯学習課及び同文化財課・市博物館学芸員を兼務。専門は村落社会学。市博物館では民俗・民具・歴史担当、2006年に発生した新潟県中越地震を機に、情報館で被災した古文書・古写真等の保存整理に携わり、市民と協働して整理活用事業に取り組む。市民の学び(学習)、ボランティア活動(社会貢献)、成果の公表(地域還元)の循環をコーディネートする中で、身近な文化財の保存を呼びかけている。2015年3月、これまでの活動を紹介する「新潟県中越大地震と資料整理 — 十日町市古文書整理ボランティアのあゆみ —」を執筆。



村山 歩  
むらやま あゆみ



山内景行  
やまうち かげゆき